

ごはんと僕

岐阜市立 郷ノ浦中学校 一年 寺田 南島

僕は、十二年間たくさんのお米を口にでききました。そんな食べ物の中でもお米が一番口にしたい食べ物です。

親の仕事により七年間中国に住んでいました。中国では、お米と小麦が主食ですが、僕は毎日お米を食べていました。日本と中国のお米は種類が違っているので味も違っていました。そこで母は、人に聞いたり試したりして

日本で食べているお米の味に近くて安いお米を探したそうです。だから、僕は、中国にいてもお米を食べることか普通のこととして生活していました。

そして、小学五年生のころ 岐阜にやってきました。学校行事の一つとして地域の方々の協力のもと田植えをしました。その後、ネット張りや稲刈りをして最後まで大切に育てました。

僕たちが育てたお米は、おもちにしていた

たきみんなで食べました。大切に汗水流して
つくったので喜びや感動、
いつも何気なく食べていたごはんは誰かが
どこかで丹精込めてつくってくださっている
んだな」といって、感謝の気持ちが生えた
ことを覚えていきます。
今も朝の登校のたび田んぼから明るく挨拶
をしてくださる人をよく見ます。

中学生になり先日戦争や原爆に関する学習
をしました。その学習では、ビデオをみたの
です。ビデオの中で戦争中のおおむすびにつ
いてのシーンがありました。それは、多くの
人が裕福ではなくお米一粒一粒が貴重だと考
えられていた頃、一つのおおむすびを譲ること
で人々の笑顔をとり戻すというものでした。
ビデオをみて感動したほくは、今日ごはん
についての作文の内容を考えたとき思い出し
ました。

正直、志岐市に来るまでの生活のなかでご
はんだけを食べておいしーと思うことは

あまりありませんでした。

しかし、壱岐に来てごはんに対する考えが少し変わりました。お米を大切に育て収穫する人たちの大変さを、戦争中のお米が食べられない大変さを知り、今まで当たり前のようにお米を食べられていたことは、とても幸せなことだと思いましたが、たくさんの方々が心を込めて一粒一粒大事に育てていることを踏まえて生活の中で、ご飯が食べられている事へ感謝の気持ちを忘れないようにしよう、と心に決め

ています。

このようにぼくは、壱岐に来てお米に対する気持ちや新たな感謝の気持ちが生まれお米をただおいしいと愛するだけでなく、深くごはんが好きになりました。